

広報大洲

きらめき創造 大洲市
—みとめあい ささえあう 肱川流域都市—

2016
No.138

7

大洲



ダンボール武者 いざ合戦

がんばる大洲っ子

今月の題字作成者

河辺小学校 5 年（現：河辺小学校 6 年）

日 野 洸 誠 さん



僕の通う河辺小学校は、全校児童16人の小さな学校です。学校行事は、幼稚園から中学校まで一緒に開催していて、みんなとても仲が良いです。また、地域の人と触れ合うことも多いので、児童は少なくともとても楽しいです。

現在、学校の勉強以外にも、空手、書道、百人一首を頑張っています。なかでも空手は、4歳のときから習っていて、心と体を鍛えています。これからは稽古を続けて、数年後には黒帯になりたいと思います。

僕の「洸誠」という名前は、シドニーオリンピック柔道金メダリストの井上康生さんに由来しています。今は指導者として活躍している柔道界トップの人と同じ名前を、とても気に入っています。

これからも、大好きなエジソンの言葉「天才とは1割のひらめきと99割の努力である」を胸に、努力を惜しまず、井上康生さんのように強くて優しい人になりたいと思っています。

7月の納税など

納期限は 8 月 1 日(月)です。

税 別	7 月	8 月	9 月	10 月
市 県 民 税		2 期		3 期
固 定 資 産 税	2 期		3 期	
軽 自 動 車 税				
国 民 健 康 保 険 税	1 期	2 期	3 期	4 期

市税などの納付は、便利で安心な「口座振替」を。

現在の大洲

人の動き(先月比)

人口	45,103人 (- 51)
男	21,543人 (- 19)
女	23,560人 (- 32)
世帯数	20,176世帯(- 4)

交通事故(昨年同期)

件数	75件(83 件)
死者	2人(2 人)
負傷者	101人(104 人)

(2016年 5 月末現在)

CONTENTS 目次

2 ページ	がんばる大洲っ子・今月の表紙
3 ページ～	(特集)自分たちに できること
8 ページ～	おおずニュース
11 ページ～	シリーズ
14 ページ～	おしらせ
25 ページ～	図書館・保健センター・ 心と体の健康ガイド
28 ページ	がんばるひと (坂本龍馬脱藩の道ガイドの会)

今月の表紙



5月21日(土)、大洲藩鉄砲隊主催の「えひめいやしの南予博2016」自主企画イベント「輪ゴム火縄銃・射的大会」が大洲城で開催されました。

手づくりのダンボール甲冑を身に付けた子どもたちは、2チームに分かれ、木製の輪ゴム銃で的を倒す速さを競いました。勝者チームの「富士隊」が天守最上階に進み、最終決戦に臨みました。



(特集)

自分たちに できること

～南予博、その先への思い～



えひめいやしの南予博 2016

「えひめいやしの南予博2016」では、3月26日(土)から11月20日(日)までの期間中に、南予地域全体で約300のイベントプログラムが開催されます。なかでも大洲市からは、自主企画イベントである「南予いやし体験プログラム」に、南予博開催市町で最多の21プログラムが登録されるなど、地域住民の積極的なまちづくり参画への意欲が見られます。

今月号では、南予博をきっかけの一つとして大洲市を盛り上げるため、自分たちができることから活動を始めた人たちの、それぞれの思いを紹介します。



新田 伝弥さん（案内人）
神岡 圭一さん（指導案内人）

「観光案内は私の生きがい」

私の理想は、国内の有名観光地のように、平日でも多くの人でにぎわう大洲市であることです。そのためには、お客様に喜んで帰っていただくことが一番だと思います。また、カヌー指導員やうかい船の船頭、観光案内が一つの魅力ある仕事となり、多くの案内人が誕生することも重要だと感じます。

今回の南予博では、新しいまち歩きコースが生まれ、何より私自身が観光案内を楽しんでいます。昨年からは10人の市民のみなさんが案内人を目指して日々研修に励んでいて、今後の活動も楽しみです。私の原動力である「来てよかった」と声をかけていただけるよう、これからも日々精進していきたいです。

× まち歩き体験



「感動を与えられる案内人に」

私たちは「ガイド」ではなく、あえて「案内人」という言葉を使っています。それは、ただ歴史や背景を説明するにとどまらず、わざわざ大洲に足を運んでもらったお客様と触れ合い、心から満足してもらうことを重要視しているからです。

私にとってまち歩きコースは舞台であり、案内人は演出者です。癒やしの観光に訪れる一期一会の出会いを大切に、いかに楽しく大洲を印象付けるかが重要だと考えています。

「大洲観光に訪れた友人に薦められて来ました」と来訪者の声を聞くことが、案内人として最高の喜びです。南予博では、市民参加の案内人と共に、大洲の魅力を伝えたいです。



国の重要文化財の指定が決まった臥龍山荘は、案内人が最も力を入れるポイント

おおず歴史華回廊
大洲を知り尽くした案内人とともに、城下町大洲の歴史をひもとくまち歩きイベント。
季節に応じたコース設定が魅力の一つで、スイーツ食べ歩きコースは女性に好評。

「心を元気に、地域を元気に」



いりさわ みき
入沢 美紀さん
(The ZEN ~坐禅~)

×
禅寺体験 (如法寺)

「忘れかけていたものを見つけた」という参加者の声もあります。地域を盛り上げたいという気持ちのなかで、私

来ていただいた人に満足していただくことはもちろん、このイベントが次世代への文化継承の一助になればと思います。

日常と切り離された静寂のなかで、ゆっくり心を落ち着けて呼吸を整える座禅は、普段忙しい人にとって体験してほしいプログラムです。実際に「自分と向き合う時間」ができた。「忘れかけていたものを見つけた」という参加者の声もあります。

私が如法寺仏殿を知ったのは、市の観光ガイド研修の時でした。私たちは、日頃新しいもののばかりを追いかけて暮らしています。しかしその一方で、如法寺のような素晴らしい文化遺産が残されていることに気付き、守っていかなければ、と思いました。できるだけ多くの人に知ってほしいと、お寺と共催で南予博へイベント登録しました。

禅寺で修行体験



座禅のほか、作務や茶礼も体験できる

「古き良きものを再認識してほしい」

観光客の増加により、地域が活性化するのはないかと、期待して

今回の南予博では、赤煉瓦館建築と同じ時代に生まれた世界初の映画機で、当時のフィルムを上映するイベントを行っています。また、別館2階では、赤毛のアン舞台をベースにした、アンティーク家具に囲まれた「納屋カフェ」も開催しています。

臥龍山荘の国の重要文化財指定への答申は、明るいニュースです。

文化財を生かすことで、地域のにぎわいが生まれることが何よりの目標です。

おおず赤煉瓦館は、まち歩き観光の主要スポットであり、19世紀末から20世紀初頭の時代を象徴する大洲市のシンボルでもあります。この貴重な



ひであき
福尾 英明さん
(赤煉瓦ふれあい倶楽部)

×
レトロ

いるところ。個人的には、何より地元の人たちにもっと赤煉瓦館に親しみを持って訪れてほしいです。

カフェではSNSを通じてお客さんが増え、情報発信の重要さもあらためて認識しています。今回好評だったものは、定着イベントとして継続していきたいと思っています。

～ハイカラ・ロマン・レトロを体感～
明治・大正・昭和の時間旅行



「納屋カフェ」で時間を忘れてくつろげる

「毎日を楽しむ。そのアイデアは次々浮かぶ」

長浜地域には、情報発信や物販の拠点である道の駅がないため、長浜らしい「海の駅」があれば、という構想があります。しかし、いわゆるハコモノはすぐにできるものではありません。

今回南予博では、駐車場やトイレ設備があるガソリンスタンドなどを「店の駅」として、

レンタサイクルの拠点を設けました。利用者はさまざまな店舗でサービスが受けられ、スタンプラリも楽しめます。赤橋自遊空間や長高水族館、漁協朝市「あらせ市」などが開かれ、長浜に人が集まる毎月第3土曜日にはレンタル料を安くするなど、地域の連携や周遊性を高めたいと思っています。

生徒数の減少により、再編計画



濱田 毅 さん
(長浜商店連盟)

×
「店の駅」

の危機もあった長浜高等学校の水産部の活躍を目にして、地域住民も「自分たちが、今できることをやろう」と刺激を受けているところ。あくまでも南予博はひとつのきっかけと考え、レンタサイクルを継続していくことはもちろん、豊富な観光資源を少しでも多くの人に発信したいと思っています。

「長浜再来る（サイクル）ん！」
自転車に乗って、長浜を満喫。



こだわりの黄色い自転車で周遊してみても

「絶景は人を笑顔にする。この感動を伝えたい」

私が初めて肱川風の博物館・歌麿館に来たとき、開放的な空間からの素晴らしい眺めに感銘を受けました。それと同時に、展示物を楽しむだけの空間では、もったいないと感じました。芸術に触れながら、時間を忘れて景色とお茶を楽しんでいただければと思います、このイベントを始めました。

南予地域には美術関係の施設が少なく、本物に触れる機会がなかなかないのではないかと思います。世界で4枚しか確認されていない喜多川歌麿の版木のうち、2枚が当館に所蔵されていることを、今の若い人たちは知らないかもしれません。私は市外出身で、今とは違う職を経て、当館の館長代理を務めています。

す。私がそうであったように、まずは芸術と景観に触れてみることで、大洲市の新たな魅力を発見してほしいと思います。今後は、カフェだけでなく、食事も提供できるように考えたいです。既存の概念にとらわれず、新しいアイデアを形にして、より多くの人々に来館していただきたいです。



河野 信介 さん
(風の博物館友の会)

×
絶景カフェ

絶景 カフェ



開放的なテラス

「人の声を聴くことが、次の何かにつながる」



あきまさ
高橋 明正 さん
(肱川カヌーイング)

×
カヌーツーリング

一番の目的は、やはり地域に人を呼び込むことです。私のように外部から来た人の感覚だけでなく、地元の賛同や共感がなければ、地域が盛り上がることはありません。そのため、今回のイベント

トに関しては、地元の人たちに体験してもらうことから始めました。それぞれの立場の人の思いに、しっかり耳を傾けることが重要だと思っています。今後はカヌー艇を増やすなど、事業として継続していきたいです。南予博が一つの契機となり、人が人を呼ぶ好循環が生まれることを期待しています。

私は群馬県出身ですが、縁あって現在道の駅「清流の里ひじかわ」の駅長を務めています。肱川をはじめとした自然の素晴らしさに感動し、地域活性化へのきっかけにしようと、肱川・河辺地区の4施設が連携し、県内初の定期川下りイベントを企画しました。約6^{キロ}を3時間ほどかけて下る「ロングライドツーリング」では、初心者には事前講習があり、温泉も楽しめます。また、各種宿泊コースも選べます。

いやしの肱川カヌーツーリング



カヌー満喫後は、温泉で疲れを癒やせる

体験し、発信する

今回話を伺ったみなさんに共通しているのは、「自分たちでできることを精一杯やろう」「自分たちも楽しみながら、大洲市を盛り上げていきたい」という気持ちでした。また、南予博だけのイベントではなく、今後の展開についても、それぞれの熱い思いを語っていただきました。

外から人を呼び込むことが、イベントを開催する大きな狙いです。しかし一方で、地元に住む人たちがその魅力を知れない限り、継続は難しいといえます。

「えひめいやしの南予博2016」は、観光客の誘致だけでなく、市民が魅力を再発見できるチャンスでもあります。例えば、イベントで大洲を訪れた人に対して、おもてなしの気持ちであいさつする、会話を交わすだけでも「住民参加」といえます。気軽に南予博に参加して、地元を誇りをもって発信してほしいと思います。

南予博大洲イベントガイドブック発刊

南予博期間中、大洲市ではどのようなイベントが展開されているのか、みなさんはご存じですか。情報量が多いだけに、全てを把握するのはなかなか難しいと思います。そこで、市内で開催される南予博のイベント全てをまとめた「イベントガイドブック」を、このたび作成しました。メインイベントのほか、月ごとのイベント情報、住民グループが実施する南予いやし体験プログラムなどを紹介しています。

あらためて大洲の魅力を再発見できる、いい機会になるはずです。ガイドブックを手手にイベントに参加して、大洲のまちを盛り上げていきましょう。

【問い合わせ先】 観光まちづくり課まちづくり係 ☎24-1717

